

たので、読者の研究の便をはかつて、左に、旧村名、現在町村名の一覧表を掲げることとする。なお、括弧内は、郡名である。

未解放部落新旧名一覧

旧名	現在
① 北山村	宮津町
② 王林村	昭和町
③ 木の川新田	新田町
④ 鞍の内村	鞍の内町
⑤ 久保村	末広町
⑥ 吉茶市村	北比江町
⑦ 木原村	住吉町
⑧ 横井村	××町
⑨ 稲津村	稲津町
⑩ 中小森村枝郷	大森町
ノ、細工村	××町
ロ、十座村	堀上町
ハ、ヤケヤ村	一色町
⑪ 一色村	(坂田)

⑫ 里根村(山本)	里根町	(天)
⑬ 大谷村	菟華町	(志賀)
⑭ 長塚村	長塚町	(愛知)
⑮ 梅本村	甲田町	(犬上)
⑯ 梅津村	梅林町	(愛知)
⑰ 垣内村	芦浦町	(栗太)
⑱ 糠田井村	小柿村	(栗太)
⑲ 八木沢村	三吉町	(坂田)
⑳ 北村	橋岡町	(栗太)
㉑ 八木山村	坂本町	(志賀)
㉒ 小脇郷枝郷	野口町	(蒲生)
ノ、野口町	宮中町	(蒲生)
ロ、鳥居前	田中町	(甲賀)
ノ、田中村	和草野村	(甲賀)
ハ、大野村寺前	寺前村	(甲賀)
ニ、今宿村末田	末田村	(甲賀)
㉔ 中野村	長寺西町	(犬上)
(甲賀町)	大久保町	(甲賀)
ノ、大久保村前外道	相模町	(甲賀)
ロ、相模村		

以上六十五の部落の中には、現在、行政上同和村並事業の対象地区から外されている部落が、二三含まれているが、その部落の歴史が、全体の部落の歴史の上に重要な関係があると思われるものは列記した。また、明治の初期までは存在したが、土地の開発、戸数減などで、その影を殆んど止めないものは、ここに挙げていない。

- ①、中野 ①、山口町 (水口町)
- ②、栗林 ②、城川、三本柳
- ③、宇川
- ④、和野
- ⑤、和野村
- ⑥、和野村
- ⑦、和野村
- ⑧、和野村
- ⑨、和野村
- ⑩、和野村
- ⑪、和野村
- ⑫、和野村
- ⑬、和野村
- ⑭、和野村
- ⑮、和野村
- ⑯、和野村
- ⑰、和野村
- ⑱、和野村
- ⑲、和野村
- ⑳、和野村
- ㉑、和野村
- ㉒、和野村
- ㉓、和野村
- ㉔、和野村
- ㉕、和野村
- ㉖、和野村
- ㉗、和野村
- ㉘、和野村
- ㉙、和野村
- ㉚、和野村
- ㉛、和野村
- ㉜、和野村
- ㉝、和野村
- ㉞、和野村
- ㉟、和野村
- ㊱、和野村
- ㊲、和野村
- ㊳、和野村
- ㊴、和野村
- ㊵、和野村
- ㊶、和野村
- ㊷、和野村
- ㊸、和野村
- ㊹、和野村
- ㊺、和野村
- ㊻、和野村
- ㊼、和野村
- ㊽、和野村
- ㊾、和野村
- ㊿、和野村

- ①、大原中村
- ②、上野村
- ③、上野村
- ④、上野村
- ⑤、上野村
- ⑥、上野村
- ⑦、上野村
- ⑧、上野村
- ⑨、上野村
- ⑩、上野村
- ⑪、上野村
- ⑫、上野村
- ⑬、上野村
- ⑭、上野村
- ⑮、上野村
- ⑯、上野村
- ⑰、上野村
- ⑱、上野村
- ⑲、上野村
- ⑳、上野村
- ㉑、上野村
- ㉒、上野村
- ㉓、上野村
- ㉔、上野村
- ㉕、上野村
- ㉖、上野村
- ㉗、上野村
- ㉘、上野村
- ㉙、上野村
- ㉚、上野村
- ㉛、上野村
- ㉜、上野村
- ㉝、上野村
- ㉞、上野村
- ㉟、上野村
- ㊱、上野村
- ㊲、上野村
- ㊳、上野村
- ㊴、上野村
- ㊵、上野村
- ㊶、上野村
- ㊷、上野村
- ㊸、上野村
- ㊹、上野村
- ㊺、上野村
- ㊻、上野村
- ㊼、上野村
- ㊽、上野村
- ㊾、上野村
- ㊿、上野村

一、世帯数、横井村は、幕末ごろから現在まで、漸次世帯数の減退した部落である。明治十二年（一八七九）の調査によると、世帯数百五十六戸、人口七二五人を数えたが、現在（昭和四十一年）では世帯数百十、六、人口四八三人である。部落の中を歩いて見ると、かつての屋敷地であつたと思われる細地が目につく。古老の話によると、金田という金持、「伯樂さん」と呼んでいた名高い牛馬医者、質屋、十代も続いた田家落十郎など立派な家があつたが、明治維新以後みな没落してしまつて、部落から離散したといふことである。このように部落衰微の痕跡を見せるようになったことは、前述した農地の貧弱さと、牛馬皮革に関する仕事、解放令布告後、急速に部落の人々の手から離れていつたことに原因する。その結果

悲惨な記録である。横井村の火葬場の台石の一隅に「安永七戌年六十六部回開為供養寄進六月願主弥兵衛」と、殆んど磨滅しそうな文字で刻まれているが、この台石の上には、毎日のように、それらの小さな帳が乗せられたわけである。

二、玄照寺、横井村にあるこの寺は、当初は天台宗に属する。野口村よりも古い、わたしは推定する。したがつて、高井川は筏川より古く、横井村は来る時期に併せて開墾が行われたものと考へられ、全国各地で武士階級が、いよいよその実力を増大した人上河川で、佐々木氏が勢力を伸長し、同時にいる。高井川と同様、皮革製造の目的のために造られた水源地があり、土地の人は今も「こまの馮」と呼んでよつて築造されたという筏川は、高井川より下流に左後制を果したものである。「こまの長者」に賜郷野口村の開墾以前（野口村の項参照）に、重要じく佐々木氏のもとで皮革製造の仕事に従つた、小最も古い歴史を持つ村であるといふことであり、同このように見て来ると、横井村は近江の国の部落中など見るべきである。

する寺院として建てられたがその創建の時期は不詳とされている。しかし、おそらく八幡神社創建の時期とあまり変わらないのではなからうか。現在の建物も、無論当初のものではないが、その門の様式は大抵、真宗東本願寺派に改宗したのは宣如（一六〇三―一六五八）の時代と伝えられている。多分、多くの部落寺院が幕府の身分差別制の強化によって、当時改宗を余儀なくされた事情と同じ事情によるものであろうと思われる。玄照寺に古い過去帳が三冊ある。一番古いのは天明元年（一七八二）にはじまる。それから寛政、文久から明治初年に至るものがあるが、法名のはかに特別な記録はない。ただ注目すべきは、死亡者の年令が、毎年七〇、八〇、百セントが幼児であるといふことである。中でも、元治元年（一八六四）十一月五日から同年十二月末までに、幼児三十九名が仏様になつてゐる。さらに年を越えて十九日まで四名が死亡している。何かの幼児伝染病の流行によるものと思われるが、實に

と、その貧困の状況を報告している。以上横井村について、若干の筆者の見解を述べたわけであるが、その成立の歴史などについては、それを伝える文献口碑などは全くなく、儼かに事物によりこれを推定するに止まるわけである。わたしは庶々木、戦国の時代以降幕政時代に至つて、井伊藩の支配をうけるようになって、皮革製造などに関する主要業務を瀬次愛知川下流にある山川原地区に移行させることになつたものと考へる。横井村は、明治七年町村分合時に、蘭加村と称して「加」を取つて命名したものであろう。現在は「御岡町」と再び改称している。

「床上三起臥シ、綿衣ヲ着シ、麦飯ヲ喫スルモノ俵カニ數百ニ過ギズ（下略）」  
明治二十一年の調査書に  
人々も貧困の度を加えるといふこととなるのである。単に貧乏家が没落しただけでなく、土地を持たない

